

JAPANESE

ミートゥー(私も)、というフレーズで大きな衝撃を与えたキャンペーンがありました。女性たちが互いを勇気づけ合い、彼女らが受けた性的暴行や痴漢について告白するというものでした。

この女性からのキャンペーンはメディア、政治、経済界を震撼させました。それだけではなく多くの人たちが騙されてきた3つの誤解について教えました。

それらの作り話は一瞬で崩壊し、両性がそれぞれ異性に傾くという、アッラーが創造された人間の天性を誰も覆すことはできないと明らかになりました。

## ただの誤解

このように  
イスラームは見る



LAUNCHING  
**CURIOSITY**  
JUST SCAN IT!!





## 第一の誤解

近代の人間は、文明、教養において一定の水準に達しており、原初の欲望を乗り越え、欲望や誘惑をコントロールすることができるようになった。

実際、異性が互いに惹かれ合うのはアッラーがそのように創造したからであり、人類が存続し続けるためにも天性として備わっているものです。それは、教育レベルや文明化とは関係なく、遺伝子レベル、ホルモン、自然な生理的欲求なのです。

人の性格、宗教、価値観は欲望、欲求を制御しようとする決意と意志をより強化します。しかし、それは内的要因、外的要因に拠る相対的のものであり絶対的なものではないのです。



## 第二の誤解

性的暴行や痴漢は閉鎖的で過激な保守的社会にみられるものであり、自由で開放された社会においては一部の例外を除き、そのような犯罪は稀である。

しかし、事実はそうではないのです。痴漢や強姦被害に関する統計と研究は、それが間違いであることを証明しています。個人の自由度のレベルが上位の国々において痴漢やレイプの割合が高いことがそれを裏付けています。たしかに自制力、個人の抵抗力は過激な保守社会においては弱体化するでしょう。そのような環境では意志が試されることは稀であるからです。しかし、意志や自制力は、どれだけ強力なものになったとしても、倫理観の欠如した自由(無秩序)な社会の誘惑に負けて壊れてしまうのです。なぜなら、周囲の生活全てに現れ出るのが彼の意志の弱体化に連動するからです。



## 第三の誤解

女性を守るために備えられた武器庫のような諸々の法律、近代の都市を満ちる艦隊としての監視カメラは、そのような犯罪、性的暴行の抑止力として十分である。

法律や監視体制が、犯罪や被害を防止する重要な原因となることは事実です。しかし、他の生活の局面において、それだけでは十分ではありません。常に犯罪を防止する最大の要因となるのは、それを引き起す元となる要因を防いで取り除くことです。病気になってからの治療は薬に頼りますが、それを誘発する元となった環境を取り除かなければいけないのです。ちょうど汚染された水の状態を改善することが、マリヤに感染した後に処方される薬よりも効果的なのと同じことです。

## イスラームの性に対する向き合い方

- 1 異性の関係は、社会生活、仕事のなかで不可欠な柔軟性を失わない限りにおいて規律や制限の基に築かれます。そして、正しい行いと誤りを放棄する個人の意志を弱らせるような事もしません。
- 2 逸脱や夫婦間以外の関係を閉ざします。予防は治療に優るといふ基本原則に則ります。
- 3 男女の結婚を容易にし、素晴らしい家族形成のために規則を設けました。その反面、夫婦間の協調が困難な場合には離婚する道もあることを明らかにします。
- 4 性行為については、そのような行為を受け入れ清浄なものと見ています。その清浄さを保つためにさまざまなルールを設けました。
- 5 異なる生活の局面で、女性が目標や願望を実現できるように自由と地位を与えました。しかし、家族形成の最も重要な柱である母親としての役割を果たすことを助けるために、完成された諸規則で女性を支えることも疎かにはしませんでした。個人的な成功か家族かといった困難な選択を迫られるような状況にはしません。
- 6 女性を守る諸規則を設けました。自由で権利があり、責任ある人としての女性です。そして女性を弱らせ、害し、快樂のためだけの商品に変えてしまうようなあらゆる道を塞ぎました。



これらから、予防は治療に優るといふ思想によって構成されているイスラーム法を理解することができます。女性の目標や尊厳を守るための諸規則を設けつつ、人生を楽しみ快適に過ごせるようにしました。女性にヒジャブ(隠すべきところを覆い隠すこと)を定めたとように、男性にも女性の魅惑的なところを見ないように目を伏せることを

義務付けました。そして他の誰もいない閉じられた空間で、女性と二人きりになることを禁じました。セクシャルハラスメントのスキandalが明らかになった後、驚くべきことに、これは今日のウォールストリートジャーナル、国際金融市場のビジネスマンへの助言にもなっています。

